

とうほうの風



～ やさしい心 丈夫なからだ みんな仲よく ひとりだち ～

令和8年(2026年) 1月7日 発行

「春風献上」

～ 学びの原点は、家族の日常生活です。～

【園長：田川隆司】

令和8年、2026年“丙午（ひのえ・うま）年”を迎えました。

皆様におかれましては、あたたかく、そして穏やかな年の初めを迎えられ、新たな「夢」や「希望」を心に抱かれたことと存じます。

本年も東邦幼稚園を、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

毎年「1月始業式号」で干支について書いておりますが、干支は「十干十二支」の組み合わせの一つで“十干”の「丙（ひのえ）」と“十二支”の「午（うま）」が組み合わさった年を指します。古代、中国では字が読めない人たちのために生き物が充てられており、「午」には「馬」という生き物が充てられていますが、暦ではちょうど12個が折り返すところで、「正午」と言う言葉が日常ではわかりやすいかもしれません。「午」の刻を境に、「午前」「午後」が示され、方角では北と南を結ぶ「子午線（しごせん）」が、兵庫県明石市を通ることで身近な存在ではないでしょうか。このように「午」の時期は太陽のエネルギー（陽）が極限にまで達する瞬間で、ここから静かなエネルギー（陰）が混ざり合い始めます。「陽」が持つ外向きの成長、拡大、情熱から、「陰」が持つ内向きの充実、沈殿、結実。この二つが複雑に混ざり合う、ダイナミックな交差点であることを示しています。ただ伸びるだけのフェーズが終り、「結実創核」という、「実を結び、次世代の種を創る」という、最も重要なプロセスへ移行することを指し示し、我々大人たちも、今までの勢いから質への転換、その成果を「種」となる確かな実りとして次世代への命にかえていく重要な分岐点とも言えます。



新たな変異株を含むインフルエンザが流行した年末。本園の子どもたちの多くが次々と感染し、制作展前には閉鎖を余儀なくされた時期はあったものの、なんとか無事に新年を迎えてくれました。これも保護者の皆様や地域関係者の皆様のご支援とご理解、そして、日頃からのご理解とご協力の賜と心より感謝しております。

東邦幼稚園は1年間の締めくくりである3学期を迎えました。今年度も様々な行事に工夫を凝らし、コロナ禍以前のようにではなく、新たな試みを含めて実施することができるようになりました。日々培ってきた“学び”を次の成長へ“繋ぐ”ためにも、「良し」とする部分をさらに伸ばし、支え合い、励まし合いながら、人として大切なものをしっかり身に付けていける真に“誇れる幼稚園”にしなければならぬと思っています。そのためにも、私たち教職員は一人一人の園児を大切に、強い絆、信頼関係を基にした確かな保育・教育をさらに強く推進したいと考えていますので、どうか引き続きご支援ご協力をお願いするとともに、新たな「親育ち」にも取り組んでいただきたいと願っております。



さて、すっかり「ネット情報」が日常になった広告業界ですが、またまた今年も…元日の「新聞広告」がとても魅力的でインパクトがあり面白いものがありましたね。大谷翔平選手の「意志ある 時を 刻めるか。」(SEIKO)は、毎年おなじみになりました。「人と、歩む。町と、歩む。絆で、歩む。」(ヤマト運輸 50 周年)、そして、私が甲乙付けがたかった「本屋さんに行こう。」(講談社)もとても印象的でしたが、大きな紙面に表現された言葉は、それぞれが「未来」や「希望」に満ちた年の初めを「一編の詩」のように演出してくれます。(TOYOTA のセンチュリーは見開き一面の映像美に圧倒されました!)

2023年の「講談社」、2024年の「小学館」。

そして、今年、紹介するのもたまたま偶然かもしれませんが、同じく出版社の大手「集英社」から“100周年”のワクワクドキドキをイメージした…。

「100年? まだまだ若造ですから。」というタイトル。

100年?

まだまだ若造ですから。

おかげさまで、集英社は今年で100周年。
でも、まだまだやりたいことがありすぎる。

君の胸が張り裂けるようなワクワクを。
この世界がひっくり返るほどのドキドキを。
まだ誰も知らない「おもしろい」があるはずだ。

エンタメの可能性をもっともっと広げたい。
育ち盛り、伸び盛りの集英社を、
これからもよろしくお願いいたします。

集英社

年長組(たけ組・ふじ組)の皆さんは、この4月から「ワクワクドキドキ」の小学校に入学することになります。保護者の皆様にとって、「学校」という大きな扉を開いて成長していく我が子の背中に何という「言葉」をかけますか? 少子化の止まらない我が国ですが、子どもたちがまだ誰も知らないであろう「おもしろい」に出会えることをめざし、大人(保護者)としての責務を果たしましょう。

大人も含めて、成長するに従い「学ぶべきこと」はまだまだたくさんあります。同時に「学べる場所」もたくさんあります。

どこにいても当たり前のことはなく不安定な社会ですが、ここ“東邦幼稚園”に関係する大人達が「志」を持ち、将来を担う“誇り”を持った子ども達をしっかりと育てていきたいものです。

これからも家庭・地域・学校園が手を携えて、子ども達のために“幸福な場所”にしていきたいと思います。